

---

# ストロボ・キリエ・カンタータ

芳雪うめ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ストロボ・キリエ・カンタータ

### 【Nコード】

N4854K

### 【作者名】

芳雪つめ

### 【あらすじ】

ストロボ・キリエ・カンタータという括りの短編詩の一つです。

部屋のペンダントライトが、消えそうにチカチカと瞬いてる。

君の買った、ギザギザした形のそれは、何だか刺さりそうで僕は嫌いだと買ったのに。

君がいなきゃあ外せもしない。

好き勝手に塗られたショッキングピンクの壁に、蛍光イエローの額縁、飛び散る青緑の斑点が目痛くてしょうがないよ。

いつも真夜中に帰って来る君は、寝ている僕を愛しそうに撫でて、その度に覚める目にくんざりしていたけれど、君がいなきゃ眠れなidaanて、それはそれでどうかしてるね。

お酒臭い君が抱きついてくれば、僕いつも顔を背けたけど、それさえも愉快だというように、君はいつも笑ってた。

たまに、泣いてた。

訳など話さない君に、寄り添うことしか出来なくて、そんな夜は二人で寝た。

ちよつと鬱陶しいくらいに僕の頭を撫でるので、なかなか眠れなくて困ったりもした。

そうそう、いつだったか、喧嘩した次の日、君が仕事に行った隙に、大切にしていた熱帯魚の水槽のコンセントを抜いてやったことがあったっけ。

今思えば、なんて可哀想で大人気ないことをしたのかと悔やむのだが、あの時の僕は怒りでそんなこと考えもしなかった。

遅くに帰って来た君は、すぐそれに気付いて、僕を哀しげに睨んだけれど、それも束の間で、またいつものように僕にただいまのキスをした。

ごめんね。

あんな顔をさせたかったわけじゃないんだ。

「やりたいことがありすぎて、時間が足りないよ」

目を輝かせて言う君が、素敵で、羨ましくて、それと同じくらいに、置いて行かれそうな気がして寂しくて堪らなかったんだ。

僕は、僕でしかいられないから。

でもね、最後に見た君の顔は、今までで一番綺麗だった。僕しか見られない穏やかな顔だった。

あんなにキラキラした君の顔を、真冬の月のように凍らせたそれは

「絶望。」

なのだと教えてくれた。

それがどれ程のものか、僕では到底分からなくて、君をすっかり変えてしまったそれを、その存在を、僕はうらやましくもおもったりした。

ねたましかった。

ほら、また、電気がきえた。

君がかえてくれないから。

きみ、きみ、何だかすごいにおいだよ。

おふろにはいったほうがいいよ、よく、ぼくを洗ってくれたよね。  
ねえ、入ろうよ、はなが、まがりそう。

きみのうえを虫がはってる。

のけても、のけても、わいてくるんだ。

うみつけられた、ときみがいったぜつぼうが、ふかしたのかもしれない。

きみがごはんをくれないからと、おそとにいったら、くびわがひっかかってとれて、しわしわのおばさんが

「野良め！」

と、ばしばしばくをなくる。

からだか、いたくてたまらない。

ちがでてる。

むねからへんなおとがする。

そうだ、あのひみたいに、君の横により添おう。

どうか僕にも、君の絶望が孵化します様に。

(後書き)

和訳された「アルジャーノンに花束を」を読んで、若かりしあの頃

(笑) ショックを受けました。

それを何となく意識したりしてみなかったり。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4854k/>

---

ストロボ・キリエ・カンタータ

2010年10月11日19時03分発行